様式第２号（政務調査活動実施報告書）

24 年　11 月　30 日

井原市議会議長
宮地　俊則様

井原市議会議員　　坊野　公治

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成 24 年 11 月 15 日（木）～17 日（土）
２．研修会等の開催地または視察先	宮城県本吉郡南三陸町
３．研修会等の名称または視察内容	南三陸復興学びのプロジェクト
４．研修会等の講師名または視察先の担当者名	社会貢献団体ユナイティッドアース　石川清守 〃　菅原美穂
５．調 査 活 動 内 容	震災から１年８カ月が経過し、震災復興についての報道が減り、復興予算の目的外の使用など、真の情報が不足していると感じる。今回、南三陸町を訪問して率直な感想は、片付いただけで何も進んでいない、という事である。実際に津波が到達した場所の立ち、説明を聞くと「想定外」という言葉が浮かんでくる。まさかここまではこないだろう、というのは現地に立って改めて実感しました。そうした中、戸倉小学校の話しが印象に残っています。

１．報告書は、調査活動終了後２週間以内に提出すること。
２．調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

戸倉小学校では、3 月 9 日に震度 5 弱の地震が来た時、その日の夕方の職員会議で女性教諭が、「本当に今の避難体制でいいのか。」と問題提起されます。それまでは屋上に避難する予定だったそうです。見直しが行われ、裏の小高い神社に避難場所を変更し、翌 10 日に避難訓練を行い、11 日には 1 人の犠牲者も出さなかったそうです。これはただ運が良かったのではなく、常に最悪の状況を想定しての行動の結果だと思います。

南三陸町を視察して、ただ復興出来ていない、大変だ、と思うには簡単な事です。常に最悪の状況を想定しておくと言う事が大切と実感します。

また、登米市が行っているように、被害を受けなかった内陸の自治体が、復興支援を行う体制が必要だと思います。井原市も笠岡市と連携して、災害発生時の支援体制の構築をするべきではないでしょうか。

最後に、やはり皆さん 1 度は被災地に入るべきだと思います。被災地の方は忘れられるのを心配しています。継続的な支援と、事実を知る事が大切です。

破壊された防波堤

瓦礫処理のプラント

20mの高台から

復興商店街

唯一形を残した建物

総合防災庁舎

様式第２号（政務調査活動実施報告書）

平成24年 11 月 26 日

井原市議会議長
宮地 俊則 様

井原市議会議員
上野 安是

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1．実　施　期　間	平成24年11月15日(木)～11月17日(土) 〈3日間〉
2．研修会等の開催地または視察先	宮城県南三陸町
3．研修会等の名称または視察内容	南三陸復興学びのプログラム
4．研修会等の講師名または視察先の担当者名	復興学びのプロジェクトチーム 石川清守氏　菅原美恵氏
5．調査活動内容	別添のとおり

1．報告書は、調査活動終了後２週間以内に提出すること。
2．調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

南三陸町は

・平成17年に

志津川町（戸倉、志津川、入谷）
歌津町　　が合併

・一般会計（歳入）は　約87億円

・人口（震災前）　17,166人
（震災後）　15,488人　（▲12.3%）

死者・行方不明者　876人（町内）人口の4.95%
78人（町外）
計954人

・震災がれき量　当初　64.5万トン（環境省推計）
現在　約37万トン
町独自のがれき処理施設を建設
処理能力
95トン/日×3基
15トン/日×1基　は　300トン/日

・被災地を前にして　復興にはほど遠い状況にあることを実感した。

・起こりうるすべての災害を把握することは難しいことであるが、できうるすべてのことを計画的に実施していくことは可能である。
綿密かつ丁寧な計画を立てていく必要がある。

・被災された方々の心的ケアも最重要課題の1つである

・"震災忘れまじ"で細くてもいい長いつながりをあらゆる面から持ち続けることも大切なことと考える。

資料

南三陸町の"まちの将来像"

「自然・ひと、なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち」

南三陸町震災復興計画（目標年次：平成33年3月）

<目標1. 安心して暮らし続けられるまちづくり>

(1) 命を守る土地利用への転換

(2) 財産を守る防災と減災のまちづくり推進

(3) 防災・減災システムの整備・強化

(4) 命と生活を繋ぐ交通ネットワークの整備

(5) 情報通信網の確立と地域情報化の推進

(6) 保健、医療、福祉、教育の安定的確保

(7) 機能集約と公共施設等の適性配置

<目標2. 自然と共生するまちづくり>

(1) エコタウンへの挑戦

(2) 水と緑のネットワークの誕生

(3) 循環型社会システムの創造

(4) ふるさとを想い、復興を支える「人づくり」

(5) 新しいライフスタイルの創造

<目標3. なりわいと賑わいのまちづくり

(1) 産業基盤の早期復興と強化

(2) 漁業、水産業の再生と活性化

(3) 農業再生・林業振興と経営基盤の再構築

(4) 商工業、観光産業の再生と新産業の創出

(5) 雇用の創出と交流人口の拡大

様式第２号（政務調査活動実施報告書）

平成　24年　11月　20日

井原市議会議長
宮地 俊則　様

井原市議会議員
簑戸 利昭

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1．実施期間	平成24年 11月 15日(木) ～ 11月 17日(土)
2．研修会等の開催地または視察先	宮城県　南三陸町
3．研修会等の名称または視察内容	南三陸 復興 学びのプログラム
4．研修会等の講師名または視察先の担当者名	復興学びのプロジェクトチーム 石川 清守氏　菅原美恵氏
5．調査活動内容	別添のとおり

1．報告書は、調査活動終了後２週間以内に提出すること。
2．調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

南三陸復興学びのプログラムに参加して

宮城県本吉郡南三陸町について

・平成 17、志津川町と歌津町合併し、南三陸町が設立

・志津川湾内では、わかめ、アワビ、ウニ、銀鮭などの養殖漁業が盛ん、マダコの水揚げも多い。

・リアス式海岸に位置するため

＊１８９６年・明治三陸大津波

＊１９３３年・昭和三陸大津波

＊１９６０年・チリ地震津波（最大津波５．３メートル）

チリ地震津波を受けて、防波堤（６メートル）を建設

・震災前の南三陸町は、人口１７，６６６人（男性 8、655 人、女性 9,011 人）

世帯数、5,362 世帯

＊２０１１年３月１１日の東日本大震災の被害状況

死者数５６５人、行方不明者数３１０人、合計８７５人（人口比 4.95%）

住宅等建物被害は、全壊、半壊数３、３１１棟（住宅の 62%）が被災

＊２０１１年１２月３１日現在は、人口１５、４８８人（男性 7、639 人、女性 7、849 人）

世帯数 2、051 世帯

＊仮設住宅数は、５８か所、2、195 戸（町外にも、多数ある）

＊震災がれき量は、環境省推計で６４．５万トン

案内人　　石川　清守氏（元宮城県庁職員）菅原　美恵氏（主婦）

戸倉小学校は、唯一、湾内低地に建設された小学校であった。３月５日に地震が起き、避難場所に疑問を感じた先生が、避難場所の確認、変更を提案、３月１０日に神社のある高台へ、避難訓練を実施していた。

戸倉中学校では、海抜２０メートル程の高台にありましたが、体育館に避難、津波が裏から廻りさらに高台へ避難途中、生徒が足を滑らせ、助けるため教頭と教員、３名が亡くなられたそうです。

この地区の最大津波は２３メートルだったそうです。

● 防災庁舎 ●

■津波の第１波の襲来まで庁舎内には約 30 人の職員がいて無事が確認されたのはわずか 10 人。職員の多くが防災担当でした。

■屋上に避難してフェンスやアンテナにしがみついたが、津波の力は想像をはるかに超えていました。

■安否が確認できていない町職員は30～40人で全職員の約２割に相当します。
これから町を担う30代の中堅職員や10～20代の若職員が含まれていました。

■屋上の床上約２メートルの高さまで津波にのまれました。助かった職員はアンテナにつかまることができた人と手すりで必死に耐えられた人たちだけだったそうです。

● 志津川公立病院 ●

■東日本大震災で入院患者107人のうち72人が死亡・行方不明となり、院内では看護婦と看護助手計3人も波にのまれました。

■病院は東棟（4階）と西棟（5階）の2棟で津波は東棟4階まで達しました。

■入院患者者の多くが自力歩行困難な65歳以上の高齢者で津波に襲われながらも入院患者42人を避難させました。

■外は雪が降るから、波をかぶった患者は低体温症・医療機器がないため、低酸素による窒息死により入院患者7名が亡くなりました。

● 高野会館 ●

■3月11日当日、高野会館2階の会場で南三陸町の高齢者芸能発表会が開かれ、400人前後集っていました。

■途中帰宅者もいたため地震時には330名ほどで地震後営業部長さんを中心に屋上へと皆を避難誘導し、高野会館屋上には近隣住民を含め総勢400人ほど避難しました。

■津波は膝まで達し、そんな状況で一夜を過ごしました。海岸から300メートル程の高野会館で、400人近い高齢者達は後ひと波を生死の境として全員無事でした。

「命がほしければ残れ」

高野建設所有

● 特別養護老人ホーム『慈恵園』 ●

■慈恵園は標高約15メートルの高台にあり志津川の中心部を一望できる場所にあります。
棟続きの町社会福祉協議会の施設は、津波など災害時指定避難場所でした。

■南隣のさらに高い場所にある志津川高校に高齢者を避難させようとしているさなか、大津波は車いすを押す職員と、まだ入所者らが残っていたホームに襲い掛かりました。

■入所者とショートステイ利用者計67人のうち46人が死亡、2人が行方不明になり、職員も1人が亡くなりました。

この視察を通して、避難の想定の甘さ等も挙げられた。避難訓練の重要性と常に問題意識をもって訓練にあたること。
井原市も、地域を上げて避難、防災訓練を行う必要がある。

戸倉小学校跡

戸倉中学校
体育館

戸倉中学校

復興に向けて、がれき処理はプラントを建設、日量９５トンの焼却炉３基、日量１５トンの焼却炉を１基で処理している。
広域処理も必要かもしれないが、雇用、運搬コストを考えると地域で処理できれば、効率的であると思えた。

様式第２号（政務調査活動実施報告書）

平成 24 年　11　月 20　日

井原市議会議長
宮地俊則　様

井原市議会議員
西田久志

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間	平成 24 年 11 月 15 日（木）～11 月 17 日（土）
２．研修会等の開催地または視察先	宮城県本吉郡南三陸町
３．研修会等の名称または視察内容	南三陸復興学びのプログラム
４．研修会等の講師名または視察先の担当者名	社会貢献共同体ユナイテッドアース　石川清守、 南三陸学びのプロジェクトチーム　菅原美恵
５．調査活動内容	別添のとおり

１．報告書は、調査活動終了後２週間以内に提出すること。
２．調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

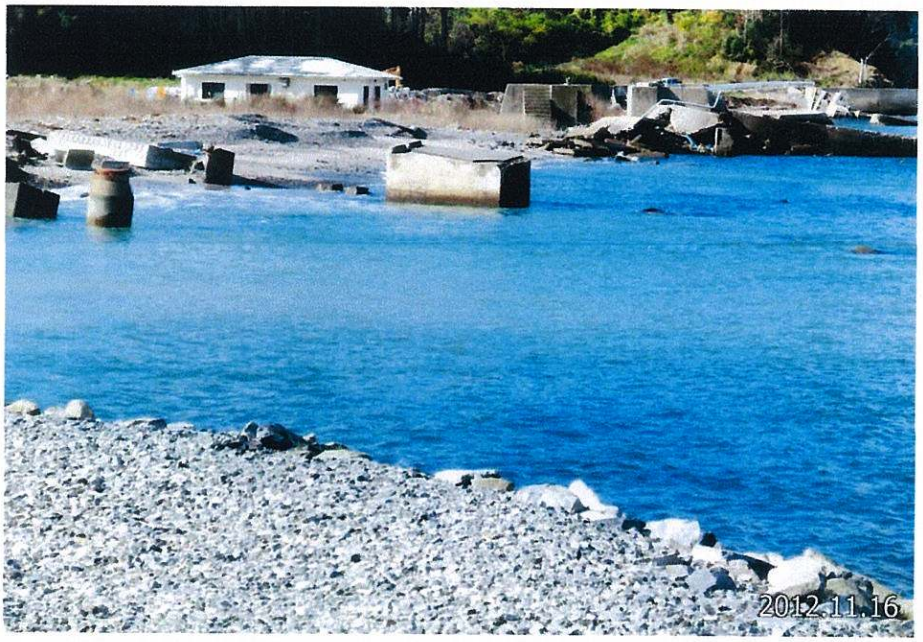
調査活動内容

平成24年11月15日から17日にかけて、南三陸復興学びのプログラムという講座に参加しました。

「私達は東日本大震災で住む場所も、働く場所も失いました。それでも、この町が好きです。これから先もここに住み続けたいと思っています。しかし、今の現状から復興の道をたどる上で、町民の力だけで復興していくには難しいものがあります。是非皆様、この現状を知っていただき、南三陸町の復興・再生にお力をお貸しください。他では体験できない内容プログラムなっています」、とのお誘いで、また、参加することが復興の手助けになるのならという思いで参加しました。私自身、昨年の宮城県七が浜での災害視察に続いて2度目の東北になったが、約1年が過ぎ、どの程度復興したか非常に興味があり、期待しての現地視察になりました。しかし、南三陸町の現状は期待外れのものとなり、いまだ復興しない現地を見て溜息が出ました。

登米市役所でのミーティングから始まり、現地までの1時間弱の間、スタッフの石井さんの説明に質問をして、和やかな雰囲気で移動することが出来ました。しかし、南三陸町に入ると様子が一変し

次々と悲惨な状況に、変わっていきました。



６ｍもあった護岸が粉々になり、国道も破壊され、いまだ復旧もされていません。

１日平均３００トンの処理能力がある、焼却プラントが建設されて

いました。まだ、調整中で本格稼働には時間がかかるそうです。

私は、被災された方には申し訳ないですが、焼却できる物は現地で処分する方が経費もかからず、迅速に対応できるのではないか、そのため、消費税が上がるのは（震災関係に特化して）仕方ないのではと思います。

（中学校から写す）

次に、訪れたのが高台の中学校です。ここは２３ｍの高台にあるのにもかかわらず、もう１メートル上を越えていったそうです。

また、眼下に望む低地にある、今は無き小学校では、２日前に急遽、避難場所を小学校屋上から近くの高台に移し、事なきを得たそうです。先生の一言で多くの児童が助かった事を聞き、有事の時、想定外をどう判断すればいいのか考えさせられました。

復興商店街（さんさん商店街）

このプロジェクトをはじめ南三陸町を訪れた人たちが食事をする所で、大いに食べて買ってくださいとの事でした。

（菅野さんより説明を受ける）

震災時の状況やその後の様子を説明していただいた。時折菅野さんが流される涙に当時のお気持ちを察することが出来ました。

（防災対策庁舎）

第１波の襲来で２０人が、３波の襲来で１０人から２０人の職員が亡くなられたそうです、屋上の床上２メートルの高さまで津波にのまれ、助かった職員はアンテナにつかまるか手摺で必死に耐えられた人たちだけだったそうです。ちなみにこの会館は、解体か保存か議論されているそうです。

実際に被災地を見て、スタッフのお話を聞くことで、テレビだけでは伝わりにくいことを感じとることができ、自分が今何をしなければいけないか、考えさせられる研修でありました。

様式第２号（政務調査活動実施報告書）

24 年 11 月 30 日

井原市議会議長
宮地俊則 様

井原市議会議員
高越宏昔

下記のとおり政務調査活動を実施しましたので、報告します。

記

1．実　施　期　間	平成24年11月15日～17日（3日間）
2．研修会等の開催地または視察先	宮城県本吉郡南三陸町
3．研修会等の名称または視察内容	南三陸復興学びのプログラム
4．研修会等の講師名または視察先の担当者名	
5．調査活動内容	現地の悲惨な状況を見て自然のこわさ無常さを知った、語り部の人の話しを聞くことで報道でしかしらない話しではないことがいろいろわかった防災会館をとりこわす話しが町議会全員賛成でとりこわす様になったと聞いたが後世に残した方がいいと思う。

1．報告書は、調査活動終了後２週間以内に提出すること。
2．調査活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により調査活動内容を取りまとめ、調査活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。